

2012.03.15 「レジーム・チェンジが必要！中野剛志先生の本を紹介」

こんにちは、参議院議員の西田昌司です。本日は3月15日です。

予算委員会が参議院の方で始まってきております。私もいずれ集中審議で予算の質問に立つことになろうかと思えます。今の民主党政権は本当に様々な問題点が指摘されています。大臣の資質に全く欠ける田中直紀議員のような方が防衛大臣をやっておりますが、これが自衛隊の最高指揮官としてやれるのかと言えば、答弁に窮している様子を見ていましてもあり得ないのです。

ですが、何よりも一番大きな問題は岡田副総理が、身を切ることをしなければならぬ、と公務員の給料を下げるとしていることです。これもとんでもないことだと私は反対をしてきました。しかし、さらに来年の公務員の採用数を、全体で7割程は減らさなければならぬ、と言うのです。これは本当に狂っていると言わなければならないと思います。そもそも、公務員数を減らして一体何が起こるのかと言うと、今までそれぞれの組織が何十人ずつ採用していたとします。それが、その年だけ二人か三人しかとらなくなってしまうたら、その年次にはいずれ局長や次官になる方が選ばれるような優秀な方がいなくなるのです。その時代の層だけ、優秀な人材がぽっかりと空いてしまう年代がでてくると、組織のヒエラルキーが成り立たなくなってくる。更に今、巷の大学生の職が就職難で非常に困っているのです。これだけ困っているのだから、本当なら民間が苦しい時は政府の方がいい人材をこの際集めて入れようとするはずな

のです。ところが今の民主党政権は、政府の借金も多いし、もうこれ以上人材も採りませんと言うことで、人件費も人の数も採用枠も減らそうとしており、とんでもないのです。

このとんでもないことをしてきた理由は一体何なのかということを考えますと、これは民主党政権になってからのみを考えれば済む問題ではありません。自民党時代にも、バブル以降はとにかく出来るだけ小さな政府をやっていく、そうしなければ借金返済出来ないのだということで、とりあえず官も民もマスコミも、財界もみんながこぞって、そういう形の政策をやってきました。当然のことながら、そういうことをやっていると、給料をもらう人の数が減り、当然所得が減って参ります。そして所得が減ってくるということは、**GDP**が減ってくることにつながるのですから、経済の規模がどんどん小さくなっていきます。ですから、戦後、とりわけバブル崩壊以後の経済政策を見なおさなければならぬということをおかねがね私は申してきたのです。

そこで今日は皆様に是非この本を読んでもいただきたいと思います。私の盟友の京都大学准教授の中野剛志さんが、先日 **NHK** 新書からこの本を出されました。題名にレジーム・チェンジとあるように、このレジーム、物の仕組み考え方を変えないといけない。恐慌を突破する逆転の発想ということで、なぜ今のような状態になってしまったのかということを詳しく書いています。これを読んでいただくと、本当に目からうろこが落ちると言うか、今民主党がやってい

ることのみならず、マスコミや自民党のいわゆる改革派といった方々がやってきたことの出鱈目ぶりが良くわかるのです。ですからぜひ読んでいただきたいです。そして、私も国会、自民党の中でも主張してきたことではありますが、要するに世論に迎合して不況で苦しい時は国民、個々の企業が節約するのは仕方がないことです。しかし、それと同じことを政府がやってしまうと、まさにデフレに加速をかけてしまいます。まさにこういう時代には、本当に正しいことは何なのかということをしっかり政府、政治家が考える。世間では節約を言っているけれども、政府のほうはその時は逆に財政支出していく。そして景気が良くなれば、その時には政府は我慢して財政支出を抑え、増税していくべきであり、政府と民間と役割分担をしなければならないのです。

戦後、特にこの構造改革を始めとした議論は、世論迎合です。もう少し言い方を変えると、市場に迎合なのです。とにかく皆がやってもいいよ、と言ってもらえるような事をやろうじゃないか、そうすれば、市場が勝手に調整してくれるのだと。それが正しいのだという考え方がいわゆる新自由主義の考え方の中にあって、これが蔓延してきたということを中野さんがこの中で書いてくれています。皆さんにも是非読んでいただきたいと思います。今日はこれから予算委員会が始まりますので、今日のビデオレターはこの辺で終わらせていただきますけれども、次の機会にはもう少し詳しくお話させていただきたいと思います。今日も御覧になって頂きありがとうございました。